

サイエンス20共同声明について

平成29年3月
日本学術会議事務局

1. 「サイエンス20共同声明」とは

昨年7月、2017年G20の議長国ドイツを代表する科学アカデミーであるレオポルディーナは、G20各国の科学アカデミーから構成されるサイエンス20（S20）を新たに立ち上げ、G20ハンブルク・サミットに向けて科学者から政策提言を行うことを提案した。これは、G7サミットに集う主要国のリーダーに対し、G7各国科学アカデミーの科学者から政策提言を毎年行っている「Gサイエンス学術会議」にならったものである。

日本学術会議は、下記2人の専門家を執筆会合に派遣し、サイエンス20共同声明の取りまとめに参加した。

- － 大内 尉義 日本学術会議連携会員・虎の門病院院長
- － 岡部 信彦 日本学術会議連携会員・川崎市健康安全研究所所長

2. 共同声明の内容

2017年1月25～26日にドイツ・ハレにおいて、共同声明取りまとめのための会議が開催され、以下を表題とする共同声明が取りまとめられた。

「世界の健康を改善する：伝染性及び非伝染性疾患と戦うための戦略と手段」
（“Improving Global Health: Strategies and Tools to Combat Communicable and Non-communicable Diseases”）

3. サイエンス20共同声明の公表

2017年3月22日にドイツ・ハレで開催されるサイエンス20対話フォーラムの中で、レオポルディーナの会長が共同声明を発表し、メルケル・ドイツ首相へ手交した。

（参考）2017年7月7日～8日 G20ハンブルク・サミット